

財政状況等一覧表（平成20年度決算）

(単位:百万円)

団体名 富津市

標準収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
10,531	—	406	10,937

1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	16,211	15,947	264	260	312	12,982	
一般会計等	16,211	15,947	264	260		12,982	

※「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
水道事業会計	1,476	1,450	26	805	48	3,899	316	法適用
温泉供給事業特別会計	1	2	△1	7	—	—	—	法適用
国民健康保険事業特別会計	6,417	6,194	223	223	346	—	—	
老人医療特別会計	416	415	1	1	53	—	—	
後期高齢者医療特別会計	390	385	5	5	118	—	—	
介護保険事業特別会計	3,153	3,095	58	58	491	—	—	
公営企業会計等 計				1,099		3,899	316	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用する公営企業である。
 2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(△～)で表示している。
 4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
千葉県市町村総合事務組合(一般会計)	35,278	34,523	755	755	1,920	—	—	
千葉県市町村総合事務組合(千葉県自治会館管理運営特別会)	259	212	48	48	—	—	—	
千葉県市町村総合事務組合(千葉県自治研修センター特別会)	148	141	6	6	33	—	—	
千葉県市町村総合事務組合(千葉県市町村交通災害共済特別会)	165	144	21	21	28	—	—	
千葉県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	4,171	3,874	297	297	20	—	—	
千葉県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	324,339	315,131	9,208	9,208	2,093	—	—	
君津都市広域市町村圏事務組合(一般会計)	316	309	7	7	—	17	3	
君津都市広域市町村圏事務組合(養護老人ホーム特別会計)	240	231	9	9	—	—	—	
君津都市広域市町村圏事務組合(心身障害児通園施設特別会計)	224	212	13	13	—	—	—	
君津広域水道企業団(水道事業)	6,372	5,232	1,140	4,124	—	22,204	123	
君津中央病院企業団(病院事業会計)	15,699	15,959	△260	4,860	—	23,554	2,709	
君津富津広域下水道組合(君津富津広域下水道組合会計)	3,492	3,026	466	438	—	9,092	3,257	
一部事務組合等 計				19,786		54,867	6,092	

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体からの 出資金	当該団体からの 補助金	当該団体からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に 係る債務残高	当該団体からの 損失補償に 係る債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
株式会社 かざアカデミアパーク	△124	△3,319	100	—	—	—	10	9	
財団法人 富津市施設利用振興公社	1	41	40	—	—	—	—	—	
富津市土地開発公社	0	29	5	—	—	71	—	—	
地方公社・第三セクター等 計			145	—	—	71	10	9	

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
財政調整基金	487	301	△186
減債基金	0	0	0
その他充当可能基金	544	579	35
充当可能基金 計	1,031	880	△151

(注) 「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
実質赤字比率	5.50	2.38	△ 3.12	△ 13.19	△ 20.00	水道事業会計	—	—	—
連結実質赤字比率	13.90	12.42	△ 1.48	△ 18.19	△ 40.00	温泉供給事業特別会計	—	—	—
実質公債費比率	13.3	12.1	△ 1.20	25.0	35.0				
将来負担比率	157.2	162.9	5.70	350.0					
財政力指数	1.08	1.07	△ 0.01						
経常収支比率	91.8	93.9	2.10						

- (注) 1. 「実質赤字比率」・「連結実質赤字比率」・「資金不足比率」は負数(△～)で表示している。
 2. 「実質赤字比率」・「連結実質赤字比率」は、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。
 3. 早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 △20%である(公営競技は0%)。
 4. 「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成20年度決算における基準である。